

大阪歯科大学
医療保健学部
キャリアセンター



大阪歯科大学医療保健学部は2017年4月に誕生しました。

本学部は歯科衛生士養成課程を有する「口腔保健学科」、ならびに歯科技工士養成課程を有する「口腔工学科」の2学科を擁し、従来歯科医療を支えてきた歯科衛生士や歯科技工士の養成にとどまらず、広い視野から歯科医療をみつめ、またその発展に寄与できる「歯科医療人財」の育成に力を注いでいます。

特色あるカリキュラムと歯学部附属病院をはじめとした充実した教育環境のもと、本学部の学生たちはチーム医療の主役となれるような歯科衛生士および歯科技工士、さらには、口腔から国民ひとりひとりの健康づくりに貢献できる「口腔保健のエキスパート」を目指し、日々懸命に学んでいます。

本学学生に対する選考につきまして、ご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大阪歯科大学 医療保健学部 について



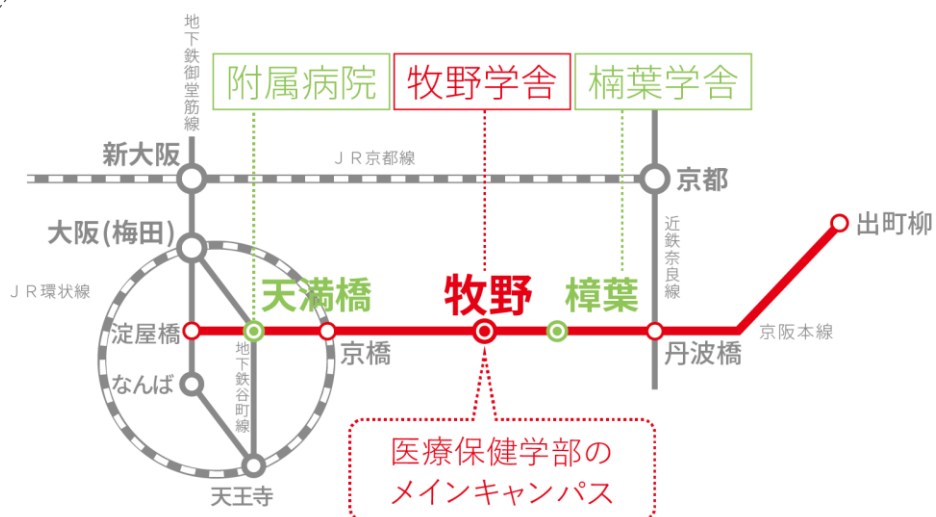
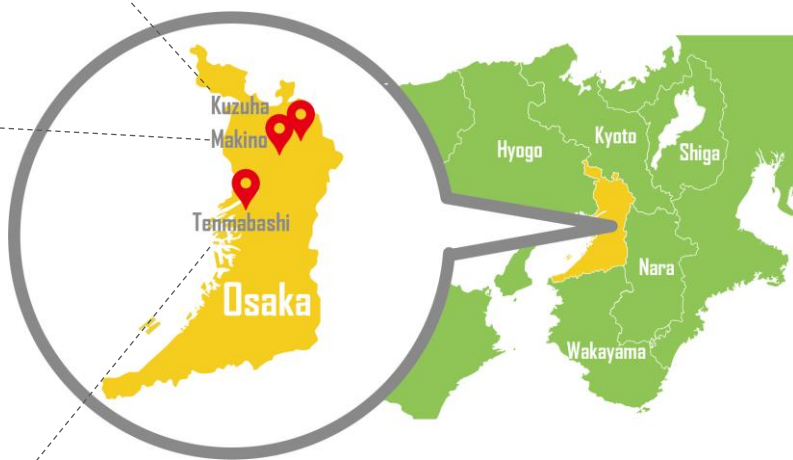
【学生定員】

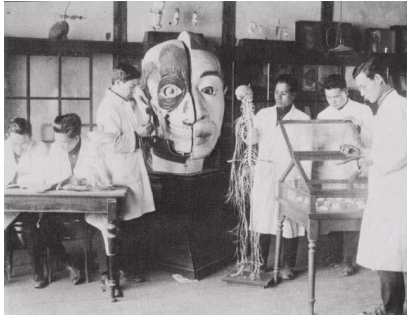
医療保健学部	入学定員	収容定員
口腔保健学科	70	280
口腔工学科	30	120
大学院医療保健学研究科	入学定員	収容定員
修士課程	10	20
博士課程(後期)	3	9

【キャンパス】

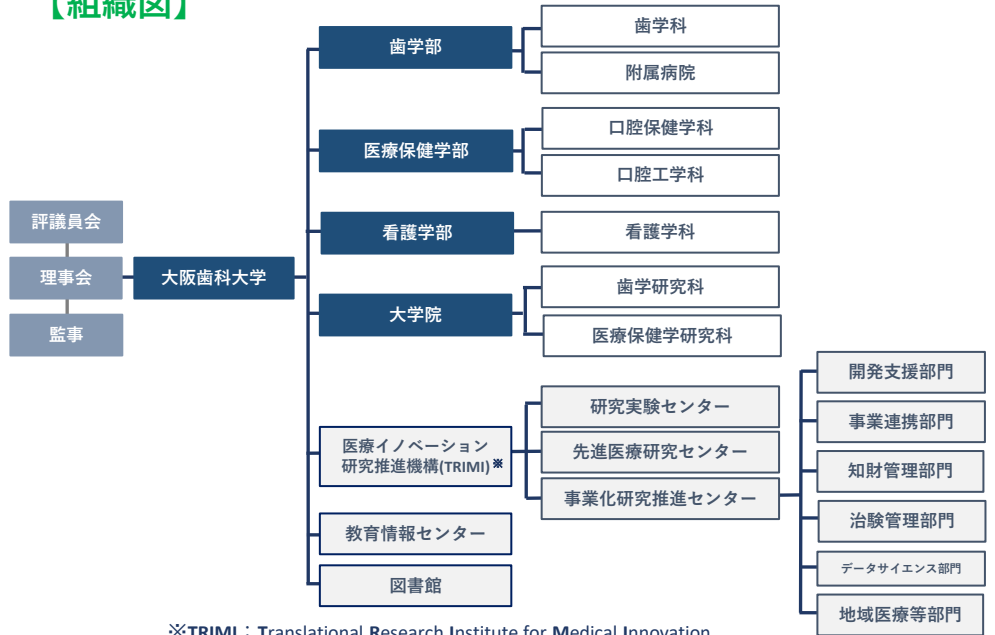
大阪と京都の間に位置し、立地環境にも恵まれた緑豊かな3つのキャンパスが学び舎です。メインキャンパスは牧野学舎です。

臨床実習を行う天満橋附属病院には、18の診療科と10の専門外来があり、年間約27万人の患者さんを診療しています。高水準の環境と設備を擁し、実習を通してさまざまな症例にも対応しうる力を養うことができる環境が整っています。





【組織図】



※TRIMI：Translational Research Institute for Medical Innovation

【沿革】

「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」という創立者藤原市太郎の遺志は今も脈々と受け継がれており、超高齢化社会を支える口腔のプロフェッショナルを輩出し、患者様に寄り添う歯科医療を追求し続けています。

大阪歯科医学校の創設

- 1911年（明治44年）12月 大阪歯科医学校 創設
- 1912年（明治45年）1月 大阪歯科医学校 開校（14日創立記念日）
- 1913年（大正2年）10月 附属医院 開設
- 1915年（大正4年）7月 大阪市南区木津大国町（現 浪速区敷津西）に移転 昼間部2年制の本科設置
- 1916年（大正5年）7月 大阪市東成郡生野村（現 生野区勝山南）に移転

大阪歯科医学専門学校へ

- 1917年（大正6年）9月 大阪歯科医学専門学校 設立
- 1919年（大正8年）1月 附属医院 新築
- 1929年（昭和4年）7月 牧野学舎 竣工
- 1935年（昭和10年）10月 天満橋附属医院 竣工
- 1939年（昭和14年）1月 大阪歯科理工学校を吸収 ※文部省の協力要請に基づく

大阪歯科大学の誕生

- 1947年（昭和22年）6月 大阪歯科大学（旧制）へ昇格（18日昇格記念日）
- 1947年（昭和22年）8月 大阪歯科大学（旧制）の予科設立
- 1949年（昭和24年）4月 大阪歯科大学（旧制）歯学部開設
- 1951年（昭和26年）3月 学校法人大阪歯科大学へ組織変更
- 1952年（昭和27年）4月 大阪歯科大学（新制）歯学部 設置認可
- 1955年（昭和30年）4月 大阪歯科大学（新制）進学課程設置
- 1961年（昭和36年）4月 大学院歯学研究科（博士課程）設置
- 1964年（昭和39年）4月 附属歯科技工士養成所開設
- 1968年（昭和43年）4月 附属歯科衛生士学校設置
- 1997年（平成9年）4月 楠葉新学舎へ移転・天満橋学舎附属病院新築
- 2001年（平成13年）6月 大阪歯科大学創立90周年記念式典挙行
- 2003年（平成15年）3月 大阪歯科大学卒業生 14,800余名
大阪歯科大学大学院修了者 510名
- 2007年（平成19年）3月 大阪歯科大学卒業生 15,270名 大阪歯科大学大学院修了者 589名

そして次の100年へ

- 2011年（平成23年）11月 創立100周年記念式典 挙行
- 2013年（平成25年）3月 創立100周年記念館 竣工
- 2016年（平成28年）8月 医療保健学部 設置認可

医療保健学部開設

- 2017年（平成29年）4月 医療保健学部 開設
- 2017年（平成29年）8月 大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程） 設置認可
- 2018年（平成30年）3月 大阪歯科大学歯科技工士専門学校 廃止
- 2018年（平成30年）4月 大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（修士課程） 開設
- 2019年（平成31年）3月 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 廃止
- 2019年（令和元年）11月 大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（博士課程（後期）） 設置認可
- 2020年（令和2年）4月 大学院医療保健学研究科口腔科学専攻（博士課程（後期）） 開設
- 2024年（令和6年）4月 看護学部開設
- 2025年（令和7年）4月 口腔工学科システム口腔工学コース開設



口腔保健学科

歯科衛生学から口腔保健学の領域へ一より大きなフィールドに立ち、口腔を中心に全身の健康をサポートできる歯科医療人を目指します

卒業時の単位

<学士> 口腔保健学

目指せる資格

- <国家資格> 歯科衛生士
- <国家資格> 社会福祉士
- <認定資格> メディカルクラーク®

超高齢社会、チーム医療、デジタル化など、医療の最前線は常に変化しています。医療コミュニケーション学、医科歯科連携学、訪問診療、医療・福祉系科目などを学び、思考力や応用力を身につけ、多様なニーズに対応できる力を養います。

目指す姿

卒業時にこれらの力を身に付けていること

- ☑論理的思考力・問題解決能力
- ☑高度な専門知識
- ☑臨床力・実践力
- ☑コミュニケーション能力
- ☑医科歯科連携力
- ☑医療人としての心と姿勢

学びの4ステップ

01.

医療人としての姿勢と心に触れ

歯科医学の基礎を学ぶ

医療人としての姿勢や心構えを4年間かけて育てていきますが、まずはその根幹となる動機や意識づけ、専門科目のベースとなる基礎知識をしっかりと身につけます。

- 医療倫理学
- 情報科学 I, II
- 早期臨床体験学習
- 薬理学
- 口腔解剖学
- 口腔生化学
- 解剖組織学
- 生理学・口腔生理学
- 医療人キャリア形成論
- など

02.

歯学の専門知識と口腔保健の基礎実習を中心に学ぶ

歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の3大業務に関する基礎実習を中心に、歯周病学など歯学の専門知識、患者さんの年齢層や症状・目的別に必要となる知識・技術・コミュニケーションスキルを身につけていきます。

- 歯学英语
- 医療制度 I
- 口腔衛生学
- 歯周病学
- 小児歯科学
- 歯科矯正学
- 歯科放射線学
- 高齢者歯科学
- 医療コミュニケーション学
- など

03.

医科歯科連携と病院臨床実習で実践力と応用力を磨く

附属病院での臨床実習と外部の医療機関での医科歯科連携学実習で、これまでに学んだ知識・技術・コミュニケーションスキルなどを実践の場で磨き、思考力・応用力を身につけます。

- 口腔衛生管理学
- 口腔リハビリテーション学/実習
- 口腔保健臨床実習 I
- 医学一般 I, II
- 看護学概論
- 歯科心身医学
- 医科歯科連携学/実習
- 口腔デジタル臨床歯学
- など

04.

学びの統合と国家試験対策

口腔保健学総論 I では、これまでの学修内容を整理し、学生自身が興味を持つ内容を探求し、発表します。口腔保健学総論 II では、各科目の要点を全体として統一した観点から学習しなおして、知識と技能を確実なものとし、国家試験に臨みます。

- オーラルマネジメント学
- 口腔保健訪問実習
- 口腔保健臨床実習 II
- 口腔保健学総論 I, II
- 国家試験対策
- など

pick up curriculum

医療人キャリア形成論

自分自身の将来像を早い段階から意識し、自分で目標設定をすることで、これから始まる4年間の学びの密度がぐっと濃いものになります。そのためのベースとなる考え方や姿勢を学びます。

医療コミュニケーション学

医療現場には、あらゆる年齢層の、健康や生活にさまざまな不安を抱えた患者さんが訪れます。現場で様々な場面に直面したときに、迅速かつ適切に対応できるよう、患者さんの健康・心理状態を理解し、スムーズに意思疎通を図るための能力を身につけます。

オーラルマネジメント学

日常臨床の治療計画の流れにおける全身を意識した口腔の検査、診査について理解し、各ライフステージおよび疾患・病態別の対応について学びます。

医科歯科連携学

保健・医療・福祉・介護現場における歯科と医科の緊密な連携により、相互の情報共有し、多職種が各専門的知識とスキルを発揮して、患者さんを中心とした質の高い医療の提供が可能となります。この授業ではチーム医療の重要性と、歯科衛生士として多職種と協働する際に必要な知識を理解し、医療従事者との連携を図るスキルを学びます。



口腔工学科

卒業時の単位

<学士> 口腔工学

目指せる資格

- <国家資格> 歯科技工士
- <国家資格> 社会福祉士
- <認定資格> メディカルクラーク®

オーラルエンジニアとしてアナログ歯科技工とデジタル歯科技工に精通し、歯科技工の新たなステージを拓きます

システム口腔工学コース：ITパスポート<国家資格>/医療情報技師

超高齢社会、チーム医療、デジタル化など、医療の最前線は常に変化しています。口腔デジタル技工学、口腔工学病院臨床実習、口腔工学訪問実習、医療・福祉系科目などを学び、思考力や応用力を身につけ、多様なニーズに対応できる力を養います。

目指す姿

卒業時にこれらの力を身に付けていること

- ☑思考力・問題解決能力
- ☑未来を見据えた歯科技工力
- ☑医療人としての心と姿勢
- ☑高度な専門知識・技能
- ☑好奇心・探求心

学びの4ステップ

01.

医療人としての姿勢と心に触れ
歯科医学の基礎を学ぶ

医療人としての姿勢や心構えを4年間かけて育んでいきますが、まずはその根幹となる動機や意識づけ、専門科目のベースとなる基礎知識をしっかりと身につけます。

- 医療倫理学
- 情報科学 I, II
- 早期臨床体験学習
- 口腔解剖学
- 歯科理工学 I, II
- 造形美術学概論
- 顎口腔機能学
- 医療人キャリア形成論
- など

02.

歯学の専門知識と
伝統的歯科技工・
デジタル歯科技工

伝統的な歯科技工と、歯科用CAD/CAMなどデジタル歯科技工の両方について学びます。保存修復学など歯学の専門知識、患者さんの年齢層や症状・目的別に必要となる知識・技術・コミュニケーションスキルも身につけます。

- 歯学英语
- 医療制度 I
- 高齢者歯科学
- 総義歯学実習
- 保存修復技工学実習
- クラウンブリッジ技工学実習 I
- 局部床義歯学実習 I
- オーラスアプライアンス学/技工学
- 口腔デジタル基礎工学/技工学 など

03.

医科歯科連携と
病院臨床実習で
実践力と応用力を磨く

附属病院での臨床実習と外部の医療機関での医科歯科連携学実習で、これまでに学んだ知識・技術・コミュニケーションスキルなどを実践の場で磨き、思考力・応用力を身につけます。

- 歯科技工管理学
- 口腔リハビリテーション技工学
- 医科歯科連携学/実習
- 口腔工学病院臨床実習 I
- 医学一般 I, II
- 審美歯科技工学実習
- 歯科心身医学
- など

04.

学びの統合と
国家試験対策

口腔工学総論 I では、これまでの学習内容を整理し、学生自身が興味を持つ内容を探求し、発表します。口腔工学総論 II では、各科目の要点を全体として統一した観点から学習しなおして、知識と技能を確実なものとし、国家試験に臨みます。

- 医療制度 II
- 口腔工学訪問実習
- 口腔工学病院臨床実習 II
- 局部床義歯学実習 III
- 口腔工学総論 I, II
- 国家試験対策
- など

pick up curriculum

情報マネジメント学

従来の歯科技工士に加え、多種多様な情報整理、分析・活用、システム設計・運用を担える歯科技工士を目指すため、ITを利用したマネジメントについて学びます。システム開発技術や、ソフトウェア開発管理など、IT社会を生きる上で必要な知識および技術を習得します。

口腔デジタル技工学

口腔内スキャナーや歯科用CAD/CAM技術など、デジタル技工の理論と知識を学習し、様々な材料を使用した修復物を製作する技術、ならびにシステムの応用について習得します。

オーラルアプライアンス技工学

睡眠障害、顎関節症などの症状がある患者さんやスポーツ選手が、予防や治療のために装着するオーラルアプライアンス（マウスピースなどの口腔内装置）を製作するために必要な知識と技術を学びます。

口腔工学病院臨床実習 I, II

実習室ではなく、附属病院内にある中央技工室内で現役の歯科技工士と肩を並べて口腔内装置を製作し、より実践的な技術を身につけていきます。3年生で I (8単位)、4年生で II (4単位) を履修し、4年間で最も履修時間が多い科目です。基礎実習で製作してきた入れ歯やかぶせ物などを診療現場の模型に基づいて製作します。

社会福祉士コース

歯科医療と福祉、両方の学びを生かし、地域包括ケアと多職種連携に対応できる新時代の高度専門職を目指します

口腔保健学科
<国家資格> 歯科衛生士

口腔工学科
<国家資格> 歯科技工士

+

+

社会福祉士コース
<国家資格> 社会福祉士

学びの4ステップ

01.

社会福祉の基盤を学ぶ

- 社会福祉論Ⅱ ●高齢者福祉論
- ソーシャルワーク論Ⅰ,Ⅱ
- 公的扶助論 ●社会福祉演習Ⅰ

02.

社会福祉の各分野を学ぶ

- 地域福祉論 ●児童・家庭福祉論
- ソーシャルワーク論Ⅲ,Ⅳ
- 社会福祉演習Ⅱ,Ⅲ
- 社会福祉実習指導Ⅰ
- 社会福祉実習Ⅰ ●障害者福祉論
- ソーシャルワーク論Ⅲ,Ⅳ

03.

ソーシャルワーカーとしての実践力を養う

- ソーシャルワーク論Ⅴ
- 地域福祉論Ⅱ
- 社会福祉演習Ⅳ,Ⅴ
- 社会福祉実習指導Ⅱ,Ⅲ
- 社会福祉実習Ⅱ
- 心理学Ⅱ

04.

ソーシャルワーカーとしての専門性を高める

- ソーシャルワーク論Ⅵ
- 社会福祉調査学
- 福祉経営論 ●社会保障論Ⅱ
- 権利擁護と成年後見論
- 更生保護論

社会福祉士国家試験
合格率 (2025年度)

100% 全国平均
60.7%

pick up curriculum

<2024年度>

100.0%(全国平均56.3%)

<2021年度>

75.0%(全国平均31.1%)

<2023年度>

100.0%(全国平均58.1%)

<2020年度>

50.0%(全国平均29.3%)

<2022年度>

83.3%(全国平均44.2%)

公的扶助論

私たちが生活する日本でも、貧困状態におかれている人は少なくありません。そのため、貧困についてまず理解し、その上で、それに対応する公的扶助制度（特に生活保護制度）について学びます。

高齢者福祉論

高齢期に「幸せに暮らす」ためにはどのような社会である必要があるでしょうか。高齢者が抱える生活困難と必要な支援について考え、介護保険制度等について学びます。また高齢者だけでなく、その家族（家族介護者、ヤングケアラー）の支援についても学びます。

社会福祉演習Ⅰ

ソーシャルワーカーに求められる価値と倫理、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術について演習形式で学びます。特にコミュニケーション技術の授業では、「図形伝達ゲーム」「母音トーク」などを通じて、共有することの難しさ、工夫や努力の必要性や、言語、準言語、非言語コミュニケーションの役割について体感しながら理解を深めます。

更生保護論

犯罪や非行をした者が再び犯罪や非行をしないよう更生する仕組みを学びます。またその支援や連携のあり方を学ぶことで社会福祉士の役割について考えます。

大学院

医療保健学研究科 口腔科学専攻

修士課程

歯科衛生士、歯科技工士のそれぞれに関する教育、研究の専門的能力を高めることを重要な目標としています。一方で、これらの高度な能力には、自己の専門にとらわれず、医療保健学、更には歯科医学全般における広い視野を持つことがより重要となります。修士課程では、口腔科学、すなわち口腔保健学または口腔工学に関する教育者と研究者としての能力、高度な専門的知識と技能及び医療保健学についての広い見識を持つ人材を養成しています。

【7つの研究分野】

- ・医療保健基礎学
- ・医療保健教育学
- ・医療保健政策学
- ・口腔機能回復学
- ・先進口腔保健学
- ・先進口腔工学
- ・口腔材料学

<取得可能学位> 修士 (口腔科学)

博士課程(後期)

歯科衛生士、歯科技工士に関係が深い口腔科学分野での研究能力を高めるとともに、研究指導者としての能力を持つことを重要な目標の一つとしています。更に、教育や研究機関における管理能力を養成することも重要な目標であり、これらの能力には、研究や教育に関する広い視野や労働衛生能力とともに人材管理や組織運営能力を持つことも重要となります。博士課程（後期）で養成するのは、自らが口腔科学、すなわち口腔保健学若しくは口腔工学に関する有能な教育者と研究者であるだけでなく、指導力、更には教育や研究組織の人材管理と運営能力を持つ人材です。

【3つの研究領域】

- ・口腔医療領域
- ・口腔保健領域
- ・口腔工学領域

<取得可能学位> 博士 (口腔科学)

キャリアセンター について

卒業生は多方面で活躍中！



医療保健学部キャリアセンターでは、学生の意向や適性等に応じて、キャリア支援委員会を中心に学生に応じた進路支援を行い、ひとりひとりの夢や想いを形にしています。採用試験で重要視される履歴書やエントリーシートの作成指導、面接対策を徹底して行い、附属病院や総合病院、企業等に採用されています。

【就職スケジュール】



【支援プログラム】

●就職活動対策講座

企業ご担当者、業界として求めることや就職活動をするにあたっての心構え、就活で大切にしてほしいことなど採用側の視点から講義していただきます。

●ODU Trial Work

事業所に直接出向き、就業体験を行います。その事業所の方々と一緒に仕事を行うため、学生の中に働くイメージを持つことができます。

※事業所によりオンラインで実施する場合があります。

●業界研究セミナー

歯科業界の方々から直接お話をうかがい、業界や事業所への理解を深めます。

●医療機関見学会

病院で直接医療の現場を見学させていただきます。

●採用試験対策セミナー

病院機能理解のためのセミナー・作文セミナーなど就活で必要な知識やスキルを身につけます。

●ワークルールセミナー

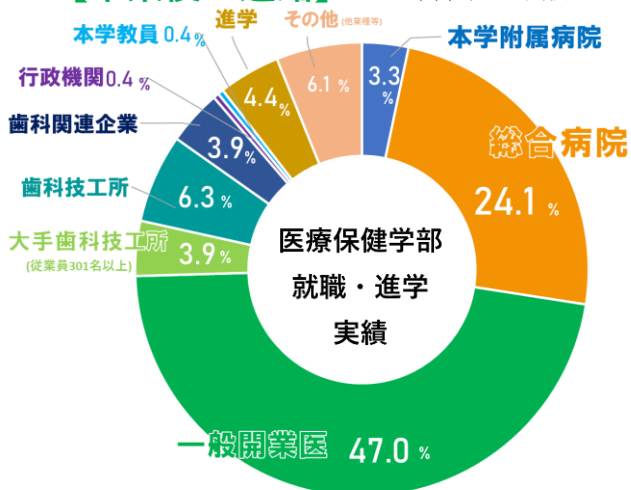
将来働くにあたり知っておくべき大切な知識（雇用条件、各種保険など）についてお話をうかがいます。

●卒業生との座談会

総合病院や歯科技工所などで活躍中の卒業生から、現場のリアルな話や就活についてのアドバイスを聞かせてもらえます。

【卒業後の進路】

※1~6回卒業生の実績



国家試験合格率

歯科衛生士 100.0%

歯科技工士 97.9%

(2020年度~2025年度実績)



【求人情報のご提供について】

※詳細はキャリアセンターホームページ「採用ご担当のみなさま」に掲載しています。右記QRコードよりアクセスください。



●インターネットでの求人受付

求人受付NAVIは、インターネット上で求人依頼を行っていただくためのシステムです。

IDとパスワードを取得したうえで求人情報を入力いただくと即座に学生へ公開され、学生が24時間いつでも求人情報を閲覧できます。求人情報の変更・更新も簡単に行っていただけますので、求人受付NAVIを利用した求人情報のご提供をお勧めしております。求人受付NAVIは、キャリアセンターホームページまたは右記QRコードよりアクセス可能です。



●メール・FAX・郵送による求人受付(求人検索NAVIでご提供いただく場合は不要です)

本学所定の用紙がございます。キャリアセンターホームページよりダウンロードできます。

「求人票」と併せて「自己申告書」「青少年雇用情報シート」をご提出いただきますようお願い申し上げます。（「青少年雇用情報シート」は、貴事業所の様式にてご提出の場合のみ必要）

※「自己申告書」「青少年雇用情報シート」については、以下ご一読ください。

== 求人情報ご提供に際してのお願い（必ずご確認ください） ==

本学では、職業安定法の第二十七条に則り、企業・団体の方からの求人の受理につきましては、公共職業安定所と同様の措置を取る必要があります。

つきましては、「青少年の雇用機会の確保及び職場への定着に関して事業主、特定地方公共団体、職業紹介事業者等その他の関係者が適切に対処するための指針（令和6年厚生労働省告示第25号）」に基づき、求人情報ご提供に際しては、自己申告書および青少年雇用情報シートの提出をお願いしております。

お手数をおかけしますが、キャリアセンターホームページでダウンロードできる求人票フォルダ内にあります「厚生労働省からの説明文書」をご確認の上、自己申告書（求人受付NAVIをご利用の場合は不要）、ならびに青少年雇用情報シート（貴事業所様式によりご提出の場合のみ必要）を併せてご提供いただきますようお願い申し上げます。なお、複数の職種の求人情報を一度にご提出いただく際、自己申告書および青少年雇用情報シートのご提出は各1通のみで問題ございません。

※本学卒業・修了予定者の就職・採用活動の際にご配慮いただきたいこと

就職・採用活動の際には、就職問題懇談会による「大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」の内容に関し、ご配慮賜りますようお願い申し上げます。申し合わせにつきましては、キャリアセンターホームページにてご確認ください。



大阪歯科大学 医療保健学部 キャリアセンター

〒573-1144

大阪府枚方市牧野本町1-4-4

TEL:072-856-9948 FAX:072-856-9978

メールアドレス: career@cc.osaka-dent.ac.jp

<https://www.osaka-dent.ac.jp/faculty/hs/career.html>

